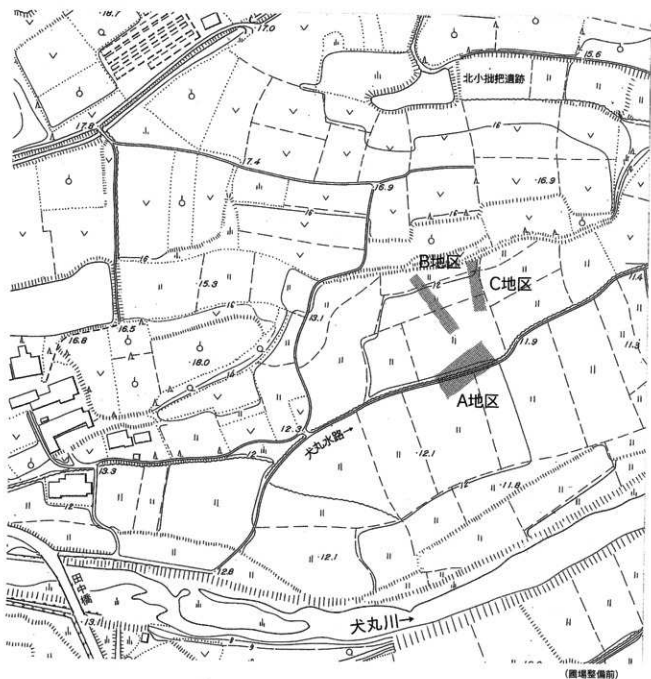


## 第6章 馬下遺跡

### 第1節 遺跡周辺の環境

馬下遺跡は下毛原台地の南を東流する犬丸川の作る沖積地に立地している。下毛原台地の中央付近に立地する田代遺跡や上畑成遺跡の標高が15m前後であったのに比べ、馬下遺跡の場所は標高11m前後となる。遺跡の西側は下毛原台地と犬丸川が接しており、沖積地が始まるのは遺跡の西側300mとなる。現在は圃場整備で旧状が失われており微地形が不明であるが、圃場整備前の地形図（第91図）を見ると、馬下遺跡の場所は西側200mにある灌漑池（池名不明）から伸びる谷水田と、犬丸川の作る沖積地が合流する地点にあたることからわかる。

また、「馬下」という地名は、古代官道が犬丸川を渡る地点にあたることから付けられた地名と考えられる。犬丸川の対岸にある野依地区条里跡（田中地区）では、官道の痕跡が確認されている。

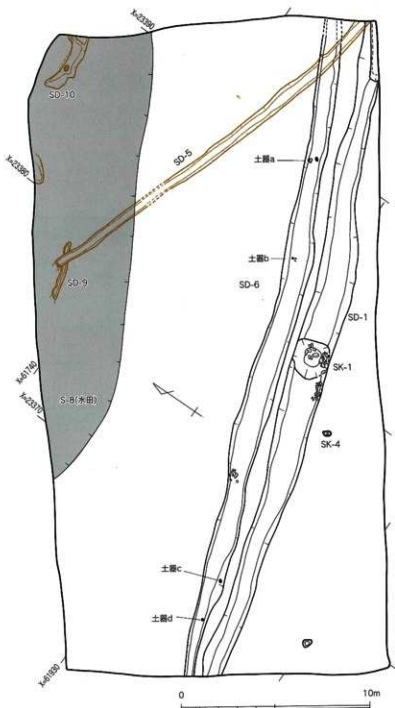


第91図 馬下遺跡調査区位置図(2,500分の1)

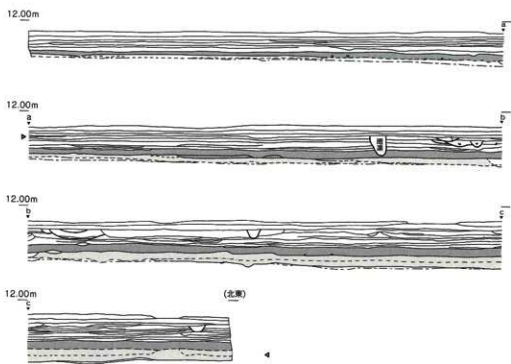
## 第2節 遺跡の概要

査はA地区からC地区の3ヶ所に分けて実施した。A地区では、中世以降の溝と水田跡が確認された。水路の中に土器(瓦器?、土師器?)の埋置が5箇所認められた。土器は正位に一個体ずつ置かれ、周辺あるいは上部に円礫を伴っている。掘り返しによって破砕している土器もあるので、水路を掘り直すたびに掘り返し土器の埋置がおこなわれたものと推定される。B地区とC地区は、ピットと土坑が1ヶ所ずつ出土したのみで明確な遺構はなかったが、下毛原台地が犬丸川の沖積地に向けて地山が傾斜する地点に立地しており、中世水田が確認された。

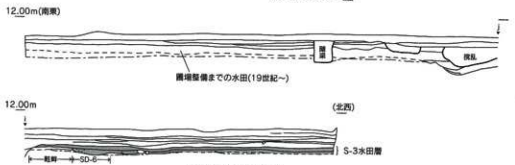
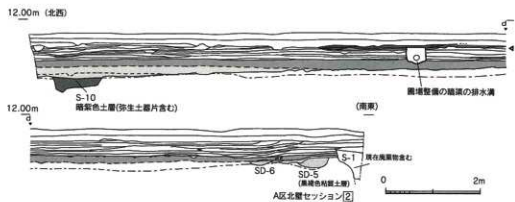
またA地区からC地区において、中世以後の遺構・包含層(水田)の中に奈良時代の須恵器がかなり含まれており、この付近に古代の集落が存在したことをうかがわせる。



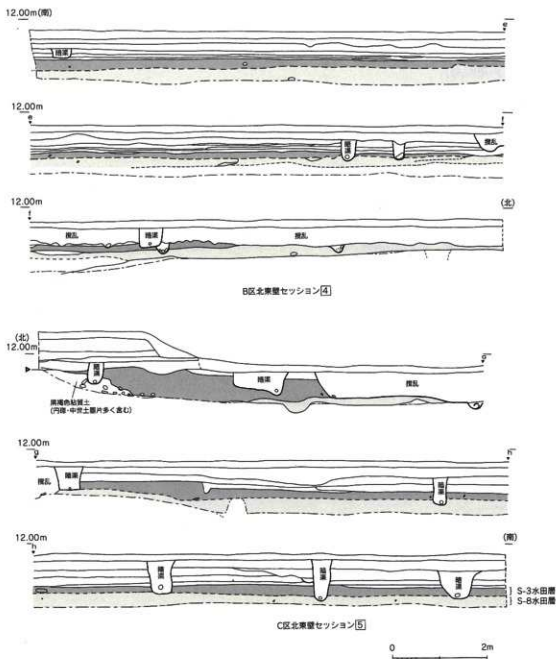
第92図 馬下A区遺構配置図 (200分の1)



A区北東壁セッション[1]



第93図 馬下遺跡土層断面図 その1 (80分の1)



第94図 馬下遺跡土層断面図 その2 (80分の1)

## 土層説明

- A区 第93図一段目の右端からS-8水田が広がり、五段目の中程でも地まりが認められるなど、S-8水田の広がりは一時的である。それに対して、S-3水田はほぼ全面に認められる。その上部は農地整備前の雑草状の水田層が認められる。
- B区 北側が段丘の落ち層にかかっている。しかし、この部分は上部は擾乱されており、S-3水田の地まりが密には確認できないが、図(第94図)上から三段目の中程であろう。基本的には全面にS-3、S-8水田が広がっており、上部には雑草の農地整備前の水田層から認められる。
- C区 北側から段丘の落ち層にかかっており、地山面上には中世の雑草層がある。水田S-3、S-8はその雑草層の両側から始まる。基本的には全面にS-3、S-8が広がる。S-3水田の奥上には農地整備直前の水田層がある。

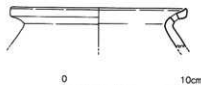
## 第3節 A区の遺構と遺物

## 1) 弥生時代

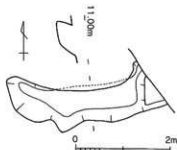
## a 溝と出土遺物

## SD-10 (第95図)

A区北西角部で確認された溝状の遺構で、唯一の弥生時代の遺構である。第96図1は小型壺の口縁部で、穿孔がある。



第96図 SD-10出土遺物 (3分の1)



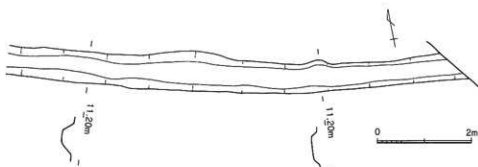
第95図 SD-10 (80分の1)

## 2) 中世

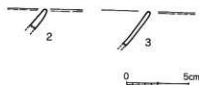
## a 溝と出土遺物

## SD-5 (第97図)

A区の北側を、ほぼ東西に直線的に伸びる溝で、幅0.5~0.7m、深さ0.2m、総延長21mを検出している。第93図の土層断面図に見るように、埋土は黒褐色粘質シルトで、SD-6に切られている。底面の標高はSD-6の方が高い。遺物は第98図2と3で、いずれも瓦器碗口縁部である。



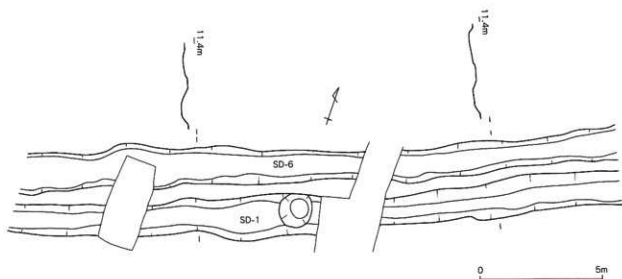
第97図 SD-5 (80分の1)



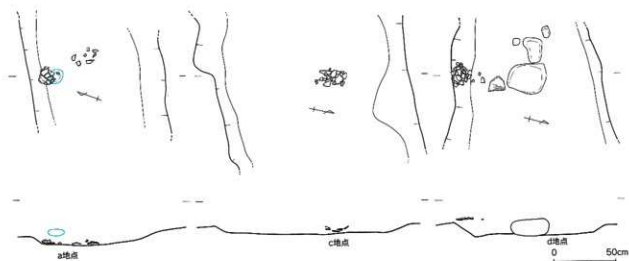
第98図 SD-5出土遺物 (3分の1)

## SD-6 (第99図)

A区において、南西部から北東部に向けて延びる溝で、幅1.0~1.6m、深さ0.2m、総延長35.7mを検出している。底面の標高は調査区南端で11.09m、調査北端で10.92mと17cm北側の方が低い。つまり、南から北に向けて水流があったことがわかる。埋土にはS-3水田下層と同じ土壌が堆積しており、位置関係からも後述のS-3水田に伴うものと考えられる。



第99図 SD-6 (150分の1)

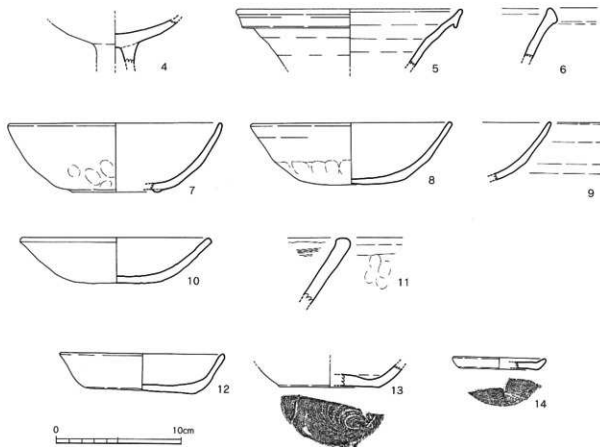


第100図 SD-6 瓦器碗出土状態 (30分の1)

注目されるのは、溝中の4ヶ所（第92図中のaからd地点）において、瓦器碗や土師器杯の完形品が据え置かれたような状態で出土したことである（第100図）。土器は正位に一個体ずつ置かれ、周辺あるいは上部に円礫を伴っている。掘り返しによって破砕している土器もあるので、くりかえし土器の埋置が行われたものと推定される。

出土遺物は第101図4から14である。4は須恵器高坏。56は須恵器壺、57は須恵器甕である。7から10は瓦質土器碗で、7の僅かに高台の残るものがb地点、高台の消えた8がc地点、同じく器高が低くなった10がd地点出土である。12は土師器杯で、a地点のものである。

瓦質土器の型式変化を見ても、土器の埋置は同時ではなく、ある程度時間をおいて継続的になされたことが想定される。



第101図 SD-6出土遺物 (3分の1)

## SD-9 (第102図)

調査区北西部で検出された溝で、直接SD-5に切られており、遺物の出土はないもの中世の遺構の中では最も古く遡る遺構である。

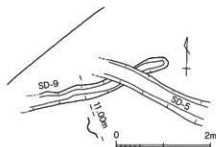
## b 水田と出土遺物

## S-3

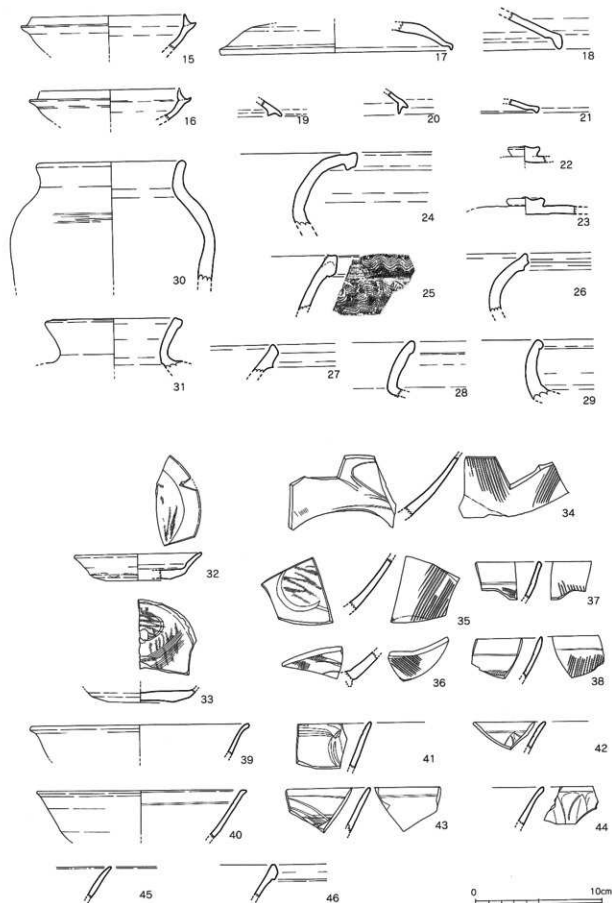
SD-5の上面を覆い、SD-6に接する位置で終わる水田である。その位置関係からSD-6がS-3水田に伴う水路であると考えられる。第93図の土層図でわかるように、S-3水田とした層は上下2層に分層でき、厳密には下層水田とSD-6が伴うことになり、外側には低い畦畔状の高まりも確認できた。上層はSD-6と畦畔状の高まりを越えて外側に広がっているが、後世の水路（圃場整備前まで使用）によって終わり方は不明となる。おそらく何らかの水路が存在したものと考えられるが、確認できなかった。

遺物は水田耕作土から多量に出土している。第103図15

から第105図94である。15から29は須恵器、32から44は青磁、45と46は白磁、47から53は瓦質土器碗、54から63までは瓦質土器の鍋、鉢類、64から78は土師質の鍋、鉢類、80と81は土師器碗、82から88は土鉢、89は磁石、90は真書の「天聖元寶」（北宋1023年）である。91から94は下層出土のもので、91の瓦器は高台がしっかりしている。

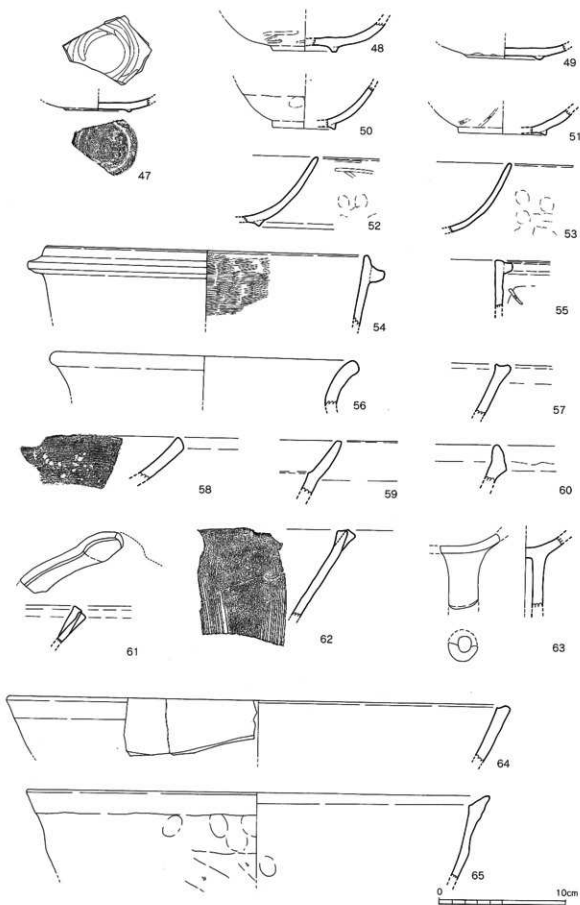


第102図 SD-9 (80分の1)

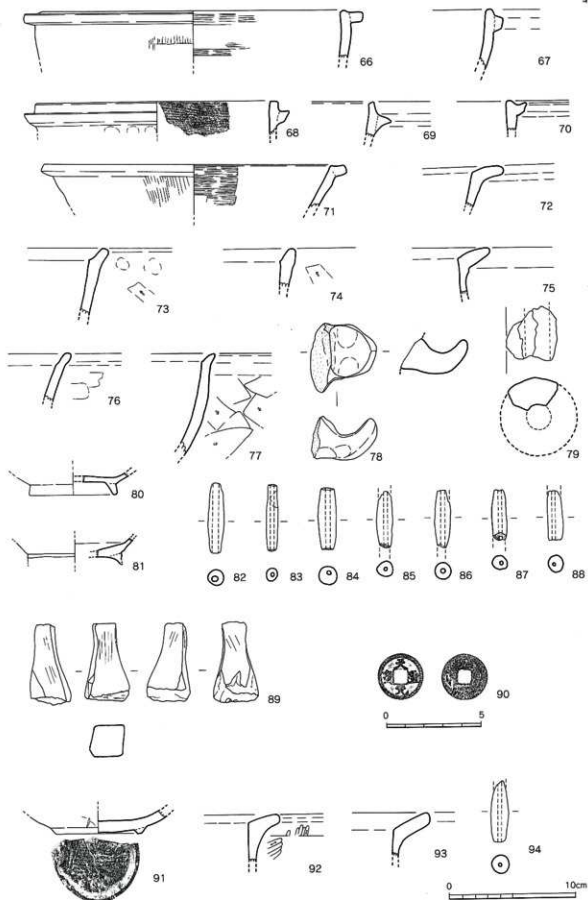


第103図 S-3出土遺物その1 (3分の1)





第104図 S-3出土遺物その2 (3分の1)

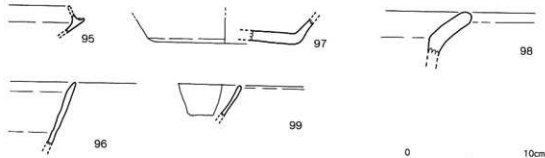


第105図 S-3出土遺物その3 (3分の1)

## S-8 (第92回網掛け部)

S-3水田のさらに下層で確認された水田で、SD-5を切っていることから、SD-5とS-3の間の時期ということになる。北側の限界、あるいは西側の限界は土層断面図(第93図)でわかるように、10cm程度の立ち上がりが見られ、平面的にも第1089図の網掛け部のように確認できた。ただし、当該時期の水田がここで終わっていたというわけではなく、一段高い水田があった場合には、S-3水田の閉削によって破壊されていたということになる。

遺物は第106図95から99である。95は須恵器杯、96は須恵器碗が、97は底部回転切り難しの土器器环、98は土器器蓋、99は瓦器である。古墳時代から古代の土器(95から98)も含まれるが、この水田の時期は99が示す13世紀である。



第106図 S-8出土遺物(3分の1)

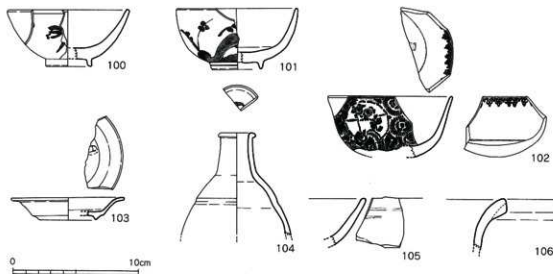
## 3) 近世以降

## a 溝と出土遺物

## SD-1

中世の水路であるSD-6に平行するように伸びる水路で、幅1.0~1.9m、深さ0.56m、総延長35mを確認している。溝底面の標高は南側で10.91m、北側で10.79mと北側が低い。圃場整備による水田が直上に乗っており、圃場整備前まで機能していた水路である。ただし、最下層からは近世の遺物が出土しており、水路の開削は最低でも近世に遡ることは確実である。

出土遺物は第107図100から106で、100は肥前染付で18世紀末から19世紀、101はいわゆる「くらわんか碗」、102は明治時代の型紙摺り、103は瀬戸美濃の白磁皿で19世紀中頃、104は高取系の徳利で19世紀代、105は肥前系陶胎染付で18世紀前半、106は土師質の鉢である

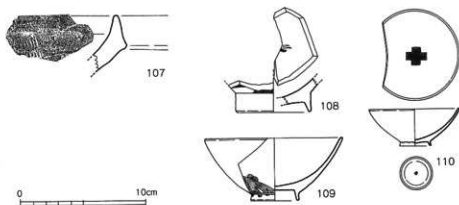


第107図 SD-1出土遺物(3分の1)

## b 水田と出土遺物

## S-2

調査区全面に広がる水田で、圃場整備以前のものである。耕作土中から第108図107から110が出土している。107は備前焼播鉢、108は広東碗、109と110はそれぞれ瀬戸美濃系磁器で現代のものである。



第108図 S D-2出土遺物 (3分の1)

## 第4節 B、C区の遺構と遺物

## 1) 遺構

A区で確認された水田の広がり等を確認するために、B、C区を設定し掘下げを行った。遺構はB区で1ヶ所の柱穴、C区で1ヶ所の土坑が確認されたのみである。

水田は、A区のS-3水田とS-8水田に対応する水田跡が土層断面で確認されている。

## 2) 遺物

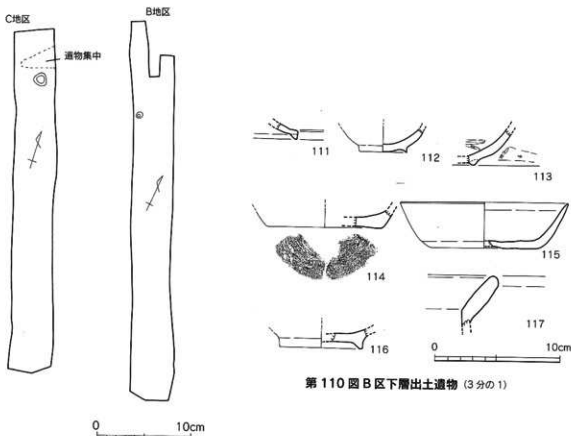
B区出土遺物は第109図111から117である。111は須恵器坏蓋、112と113は瓦器碗、114と115は土師器坏、116は土師器碗、117は土師器甕か。

C区出土遺物は第110図118から第112図160である。その内、118から134は出土層位不明の一括資料、135から141は上層、142から155は下層、156から160は下層で一括して出土したものである。118から122は須恵器、123は瓦器碗、124は瓦質の火鉢で胴部に多条突帯を廻らせるもの、125は瓦質の播鉢で内面見込みに花文の摺り目がある。126と127は瓦質の鍋、128と129は土師質土器鉢と甕、130から133は土師器碗、134は滑石製鍋。

135は須恵器坏身、136は須恵器坏蓋、137は須恵器壺、138から140は土師質土器で、それぞれ鉢、釜である。141は丸瓦である。内面には布目痕が認められる。

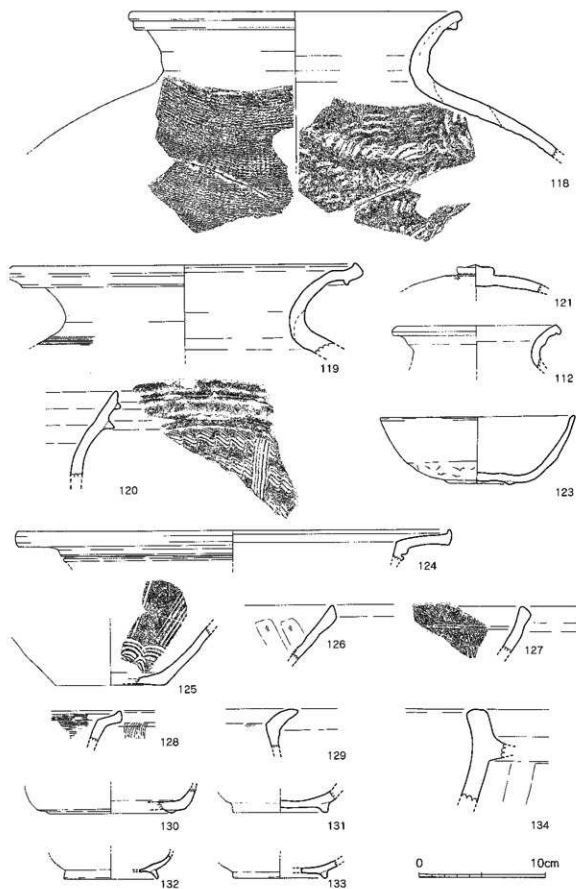
142から145は須恵器である。146は蓮弁を有する青磁碗、147は玉緑の白磁碗、148と149は瓦器碗。150から155は土師質土器の鉢、鍋、甕である。

156から160は須恵器で、160を除いて狭い範囲で集中して出土した。160はやや離れていた。

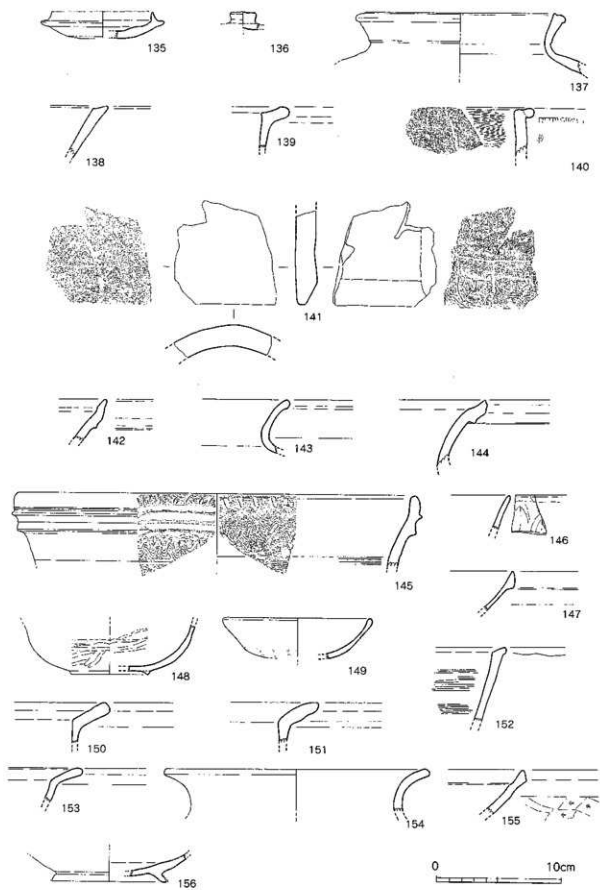


第110図 B区下層出土遺物 (3分の1)

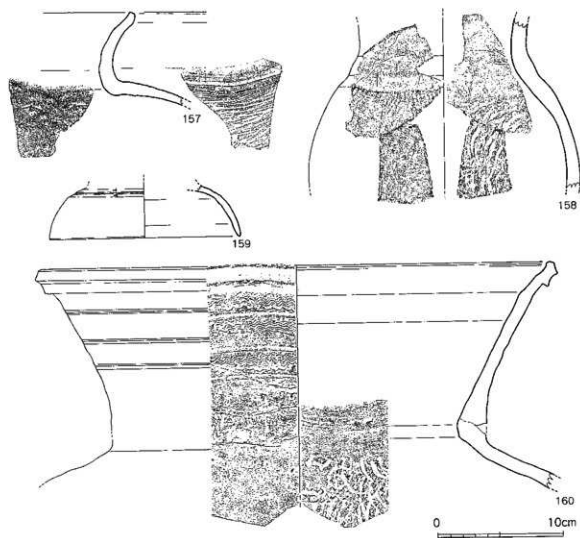
第109図 B、C調査区



第111図 C区遺物集中区、トレンチ内西部出土遺物(3分の1)



第 112 図 C 区西上層、西下層、西石集中出土遺物 (3 分の 1)



第113図 C区遺物集中区出土遺物 (3分の1)



## 第5節 小結

馬下遺跡の北側200mに位置する北小批杷遺跡では、包含層から弥生時代中期、古墳時代後期、古代、中世前期の遺物が出土している。馬下遺跡の時期と概ね重なるということが出来る。馬下遺跡は田圃池跡のため、生活の跡を示す遺構は確認できなかったが、おそらく馬下遺跡と北小批杷遺跡の間に挟まれた標高16~17mの下毛原台地上には、集落が存在したものと考えられる。

調査前の状況は昭和50年前後の圃場整備で新しく形作られた水田区画になっており旧状はうかがい知れなかったが、圃場整備前の地図と今回の調査区を重ねてみると、A区で確認された水路SD-1やSD-6とほぼ同じ位置には水路が流れていたことがわかる(第91図参照)。この水路は、遺跡の約1km西南西(上流側)に位置する犬丸川本流に掛かる「犬丸井堰」(長生橋の上流側)から伸びる水路で、遺跡の位置から北東に位置する犬丸地区に給水していた。仮にこの水路を「犬丸水路」と呼ぶと、この犬丸水路は井堰から揚水した後、左岸沖積地を流れ、「黒川」集落の所(田中橋北側)で下毛原台地に行く手を阻まれるため、台地にマブ(隧道)を掘って犬丸側に通水している。遺跡は、このトンネルを抜けてすぐの所にあたる。

通常、隧道を掘ってまで水路を通すのは近世以降のことであり、馬下遺跡で確認された水路が犬丸水路の前身であるとすれば、近世以前は川と台地の間に段丘が残り、そこを遡って犬丸に水を送っていたものと考えられる。後に川の浸食作用により段丘が消滅し、隧道を掘らざるを得なかったのであろう。

SD-6の時期が13世紀であり、犬丸水路の開削が鎌倉時代にまで遡ることを示唆するものであろう。  
参考文献『北小批杷遺跡・野田遺跡』大分教育庁文化財センター2007

## 第7章 まとめ ～下毛原台地の開発と遺跡～

山国川下流域右岸に広がる平地は、西から東に沖積地の「沖積平野」、洪積台地の「下毛原」、「長峰原」沖積平野上部の「四日市平野」と続いている。そして、下毛原と長峰原の間に犬丸川が流れ、狭小な平野を形作っているのである。今回の中津日田道路は、下毛原を南北に抜けた後犬丸川を渡り、一部長峰原をかすめた後に山に向かうもので、それに伴う発掘調査は下毛原の歴史の一端を明らかにするというものであった。以下では、下毛原台地の水田開発に係わる歴史に焦点を絞って略述してみたい。

### 溜池灌漑

第114図は明治33年作成の地形図である。この段階の土地利用状況を見てもわかるように、下毛原台地上は基本的に畑地であり、谷頭に作られた溜池から引水する谷間に水田が展開しているものであった。しかも、この状況は、江戸時代の享保2年（1685）に着工し、元禄2年（1689）に完成した80町歩を潤す荒瀬井堰の水路が下毛原台地を貫通した後の状況であり、荒瀬井堰開削以前はさらに水田面積が少なかったはずである。

つまり、近世前期までの状況は、上畑成遺跡や田代遺跡の水路に示されるように、水源として谷頭に溜池を控え、そこから台地上に水を揚げて水田を作る、いわゆる溜池灌漑による水田が主体であったと考えられる。上畑成遺跡や田代遺跡の溝は、16世紀代には確実に掘削されており、溜池（この場合は「から池」）の造成が戦国期に遡るのは確実である。しかも、上畑成遺跡では古代に遡る溝も確認されており、溜池灌漑がさらに遡る可能性も考えられる。この下毛原の最も奥（標高が高い地点）にある御御池の堤が、発掘調査によって17世紀中頃の築造が想定されていることを考慮すると、上畑成遺跡の水路が溜池灌漑に係わることも十分可能性を有していると考えられる。今後の調査によって確実が期待される点である。

### 井堰灌漑

馬下遺跡では、圃場整備前の水路にはほぼ重なる形で中世前期に遡る水路が検出された。馬下遺跡の立地する地点は、下毛原台地が犬丸川によって開削され、沖積地に向かって緩傾斜をなすところであり、台地上の上畑成遺跡等と立地条件を異にする。ここで検出された水路の水源は溜池ではなく、河川に架かる井堰である。現在の井堰（前田井堰）は馬下遺跡の1km西南西上流にあり、犬丸地区に配水するものである。水路は井堰から揚水した後、左岸沖積地を流れ、「黒川」集落の所（田中橋北側）で下毛原台地に行く手を阻まれるため、台地にマブ（隠道）を掘って犬丸側に通水している。おそらく、犬丸川が蛇行して「黒川」の台地にぶつかるために段丘が削られ、現在のようなトンネルを掘削することになったものであろう。

すなわち、犬丸川本流からの井堰灌漑は少なくとも鎌倉時代には始まっていたとすることができよう。しかし、その水を下毛原台地の上に乗せることは比高差がありすぎてできなかった。このことから、下毛原台地の水田が多くが溜池灌漑に頼り、さらにその水の少なさを補うために耶馬溪からわざわざ10km近くも水路を引き、山国川本流の水を揚げるという大土木工事を行わざるを得なかったのである。

では、犬丸川の井堰灌漑が中世以前に遡り得ないかという点ではない。馬下遺跡と犬丸川を挟んで対岸の沖積平野にある伊藤川田中遺跡（平成18年度調査、未報告）では、糸巻を潤す古代の水路が検出されている。この水路の水源は、水路の方向から考えて犬丸川と考えられる。現在糸巻地区（圃場整備により景観的には消滅）への配水を行う水路は犬丸川の「前田井堰」から分けてもらっているが、以前は「前田井堰」のすぐ下流側にあった「田中井堰」から取水していた。この水路が伊藤川田中遺跡で検出された古代の水路を踏襲していることが想定できる。つまり、沖積平野への給水では犬丸川本流の井堰灌漑が古代から行われていた可能性が高いのである。

そう考えられるとすると、古代から中世の下毛原台地は基本的に畑卓越地帯であり、犬丸地区のように台地末端のやや低い場所では犬丸川本流からの河川灌漑による水田が開かれていたものの、基本的には台地を浸

食する小さな閉析谷の谷頭で溜池灌漑で狭小な水田を営営する時代が長く続いたとすることができよう。この状況はさらに遡って古墳時代や弥生時代も大きくは変わらなかったと考えられる。むしろ、この時代に属する水路の検出が無かったことから考えて、溜池灌漑も古代以降に活発に行われるようになったものかもしれない。

#### 集落の立地と展開

古代から中世の集落は、今回の調査地区内では確認されなかった。しかし、水路内などから多くの該期の遺物が出土している。至近に集落が展開していたことを窺わせる。現在の集落はいずれも下毛原台地の縁辺部にほぼ等間隔に展開している。逆に台地内部の平坦地は耕作地として利用されていたのであろう。このような景観が成立したのは中世の後半期であり、中世前半期以前の状況は不明である。

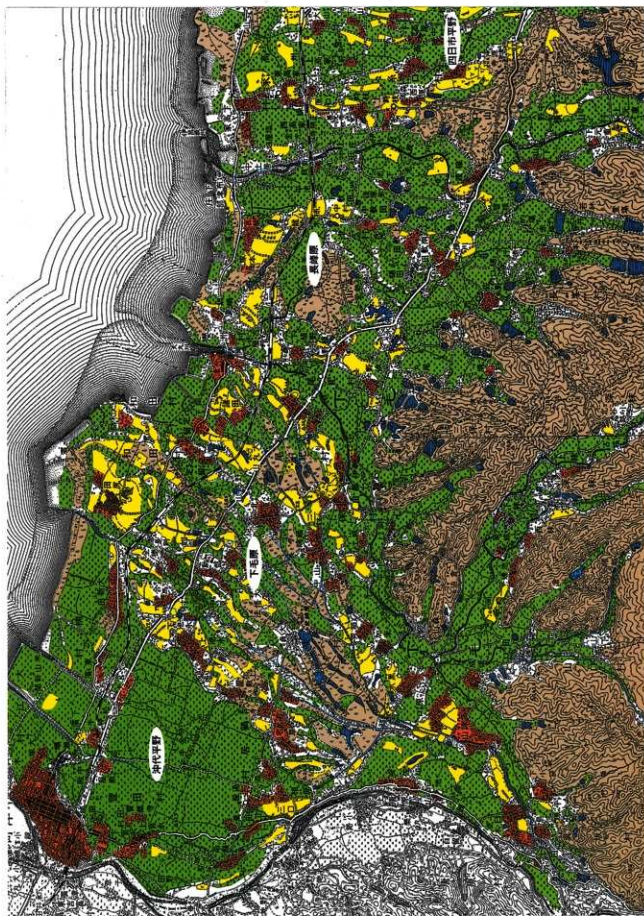
では、大規模な水田の開墾を期待できない古墳時代はどうだったのであろうか。田代遺跡や諸田南遺跡、野川遺跡で発掘され、さらに定留遺跡や諸田遺跡で確認されているように古墳時代集落は台地の広範囲に大規模に展開していることがわかってきた。それらには大量の埴壺や埴壺焼成坑が伴うことからわかるように、海との関係を有していたのは明らかであり、畑作と漁業が主体であった。しかし、さらに想像をたくましくすれば、下毛原台地の犬丸川を挟んで南側の丘陵先端部に展開する須恵器窯の製作工人の居住地に比定することもできるのではなからうか。

諸田南遺跡出土の須恵器は、その多くが白っぽく軟質に焼けた焼成不良品であった。さらに海岸に近い遺跡ではその割合は下がるようであり、そのことが須恵器供給体制の問題なのか、須恵器工人の居住にかかわる問題なのか即断はできないものの、今後詰めていく必要のある課題である。

さらに遡って弥生時代になると、田代遺跡で住居跡と貯蔵穴が確認され、馬下遺跡で溝状の遺構が確認されているが、大規模な集落跡は確認されていない。むしろ、中・小河川を望む台地南側の丘陵部に集落が立地している。開発が個別小規模なものであったことを示している。

縄文時代は、早期に比較的広い範囲で遺構が確認される。遺構は大きく2種類に分けられる。一つは陥穴であり、一つは焼土坑である。陥穴は諸田南遺跡D地区のみであったが、さらに北側の定留遺跡でも確認されている。焼土坑は集落に伴うものであり、田代遺跡と上畑成遺跡で検出された。

中津道路の調査は、平坦な下毛原台地を南北に縦断するものであったが、旧石器時代から近世に至る遺物、遺構が確認された。台地上の開発と利用状況の変遷の概略は上記のようであるが、今後は大規模な調査が進んでいる犬丸、諸田、定留地区での調査成果が明らかになった段階で、さらに詳細な検討が必要となろう。



第 114 図 下毛原台地土地利用状況

(明治 33 年作製地形図に加筆)

第2表 遺物観察表 (その1)

## 諸田南遺跡D地区出土遺物観察表

## 土器・陶磁器類

遺物番号	図録番号	出土地点	種類・形状	数量		器形、成形など	調査、文様など	焼成	胎土	色調	備考
				口徑	高さ						
001	11	SH-6	煎茶器	(14.0)		ロクロ調整、天井部回転ヘラケズリ	ヨコナテ、外蓋へラ記号	良好	砂粒やや少ない	黄灰白色	
002	11	SH-6	煎茶器	(13.0)		ロクロ調整、天井部回転ヘラケズリ	ヨコナテ	良好	角閃石、長石少し	黄灰白色	
003	11	SH-6	煎茶器	12.4	3.6	ロクロ調整、天井部回転ヘラケズリ	ヨコナテ、内蓋ヨコナテ後十字、外蓋へラ記号	良好	角閃石、長石やや少ない	黄灰白色	
004	11	SH-6	煎茶器	(12.0)		ロクロ調整	ヨコナテ、外蓋へラケズリ	不良	角閃石、長石少し	黄褐色	
005	11	SH-6	煎茶器	(11.0)		ロクロ調整、底部ヘラケズリ	ヨコナテ、外蓋へラケズリ	良好	長石少し	黄褐色	
006	11	SH-6	煎茶器	(14.0)		ロクロ調整、底部ヘラケズリ	ヨコナテ、外蓋へラケズリ	不良	角閃石、長石やや少ない	黄灰褐色	
007	11	SH-6	煎茶器 底付 (12.0)			厚板・底面調整のため不明	ナゲ?	良好	角閃石、長石やや多い	黄褐色	全体の厚板
008	11	SH-6	土師器			口縁部が傾斜中心に開く	ヨコナテ、ナテ (外蓋は厚板)	良好	砂粒多い	黄褐色	
009	11	SH-6	土師器	(19.4)		くの字に折れ開く口縁部	ヨコナテ、外蓋ナメハケ種ヨコナテ	良好	角閃石、長石、石英多い	黄灰褐色	
011	13	SK-3	煎茶器	(10.0)	3.6	ロクロ調整	ヨコナテ	不良	角閃石、長石、石英やや多い	黄褐色	
012	15	SK-5	煎茶器	(12.2)	3.95	ロクロ調整、天井部回転ヘラケズリ	ヨコナテ、外蓋へラケズリ	良好	砂粒少ない	青灰色	
013	15	SK-5	煎茶器	(9.4)		ロクロ調整、底部ヘラケズリ	ヨコナテ、外蓋へラケズリ、へラ記号	良好	角閃石、長石やや少ない	黄灰褐色	
014	15	SK-5	煎茶器	(13.0)		ロクロ調整	ヨコナテ	不良	角閃石、長石多い	黄灰白色	
015	15	SK-5	煎茶器	(10.2)		ロクロ調整	ヨコナテ、外蓋へラケズリ	不良	角閃石、長石やや多い	黄褐色	
016	15	SK-5	煎茶器	(11.2)	6.0	ロクロ調整 調整痕跡外上方につまみあがる	ヨコナテ、外蓋外蓋へラケズリ	良好	角閃石、長石やや少ない	黄褐色	
017	15	SK-5	煎茶器 底付 (11.0)			ロクロ調整 調整痕跡外上方につまみあがる	ヨコナテ	不良	角閃石、長石やや少ない	白灰黄色	
018	16	SK-5	煎茶器			ロクロ調整 口縁部は外方向傾斜状に突出	ヨコナテ	良好	角閃石、長石やや少ない	青灰白色	
019	16	SK-5	土師器			積み上げ	ナテ、口縁部ヨコナテ、外蓋ナメハケ種ナテ	良好	角閃石、長石多い	黄灰褐色	
021	16	SK-11	煎茶器	(11.0)		ロクロ調整	ヨコナテ	良好	角閃石、長石やや少ない	黄灰褐色	
022	16	SK-11	煎茶器	底付 10.6		ロクロ調整、本引き痕跡あり	回転ナテ	良好	砂粒少ない	灰黄色	
023	16	SK-11	土師器			直線的に外縁	口縁部ヨコナテ、内蓋ヨコナテ、外蓋ナメハケ種ヨコナテ	良好	長石、石英多い	黄褐色	外蓋に磨痕あり
024	16	SK-12	煎茶器	(13.2)	3.7	ロクロ調整、天井部回転ヘラケズリ	ヨコナテ、天井部ヘラケズリ、へラ記号	良好	砂粒やや少ない	黄灰色	
025	16	SK-12	煎茶器	(10.2)		ロクロ調整	ヨコナテ、外蓋へラケズリ	良好	内閃石、長石やや少ない	黄灰色	
026	16	SK-12	煎茶器 底付 (9.4)			ロクロ調整	ヨコナテ、外蓋外蓋へラケズリ、底面内蓋へラ記号	良好	石英やや少ない	黄灰白色	
027	16	SK-12	土師器	(10.0)		外蓋部・工具での磨きによる若干凹凸痕跡	口縁部ヨコナテ、内蓋ナゲ種へラケズリ	良好	角閃石、長石、石英多い	黄褐色	外蓋に磨痕あり、25と同一形状か
028	16	SK-12	土師器			磨の痕跡、調整跡との接合痕跡あり	ナゲナテ、へラケズリ	良好	内閃石、長石、石英多い	黄褐色	外蓋に磨痕あり、27と同一形状か

## 土鐘

遺物番号	図録番号	出土地点	種類	材質	造 量		備考	
					長さ	幅		
010	11	SH-6	土鐘	黄焼き		2.0	棒状土鐘 焼成前穿孔あり	
020	15	SK-5	土鐘	黄焼き		6.6	1.7	棒状土鐘 光形
029	15	SK-12	土鐘	黄焼き				棒状土鐘

第3表 遺物観察表(その2)

## 田代遺跡出土遺物観察表

## 土器・陶磁器類

品目 (分類)	調査 番号	出土 位置	層位	検出		形状、装飾など	陶質、土質など	時代	出土	色澤	備考
				11月	調査						
001	28	S-33	縄文上層			直線部に伸びる口縁部	ナテ、黒文	良好	内面紅、石灰少ない	褐色	
002	28	S-33	縄文上層			口縁部で小さく外反する	ロコナテ、黒文	良好	内面紅少ない、 打痕あり	によい黄褐色	
003	28	S-33	縄文上層			直線部に伸びる口縁部	ナテ、黒文	良好	内面紅少ない、 石灰少ない	褐色	
004	28	S-33	縄文上層			丸底	ナテ、黒文	良好	内面紅、灰石少ない	褐色	
005	28	S-52	縄文上層			口縁部で小さく外反する	内面紅付、黒ココナテ、外周ナテ、 ナテ、黒文	良好	内面紅、灰石多い	淡黄褐色	
006	28	S-52	縄文上層			直線部に伸びる口縁部	内面紅ココナテ、外周ナテ、黒文	良好	内面紅、灰石多い	淡褐色	
007	26	S-52	縄文上層			口縁部で小さく外反する	ナテ、黒文	良好	内面紅少ない、 打痕あり	褐色	
008	28	S-52	縄文上層				ナテ、黒文	良好	内面紅わずから、 砂粒少ない	褐色	
009	29	S-52	縄文上層				内面紅付、黒ココナテ、 外周ナテ、黒文	良好	内面紅、灰石多い	黄褐色	
015	31	S-34	弥生上層	Q2.4		口縁部が(4)の厚に厚く	粗砂の赤褐色	良	内面紅多い、 灰石少ない	黄褐色	
016	31	S-34	弥生上層	Q5.9 Q6.2		平底	ナテ、外周ナテ後ナメハケメ	良好	内面紅多い、 石灰少ない	褐色	
017	31	S-34 上層	弥生上層	Q6.2		平底	ナテ	良好	内面紅少ない、 灰石多い、石灰わずから	淡褐色	
018	31	S-34	弥生上層	8.4	3.4	小さな平底を伴つ	ナテ	良好	内面紅少ない、 灰石わずから	褐色	
019	31	S-34	弥生上層				内面ココナテ、 外周ココナテナテ	良好	内面紅少ない、 灰石多い	黄褐色	
021	33	S-16	弥生上層	Q9.5		口縁部が(4)より、内面紅あり	ココナテ、内周ナテ、外周ナテナテ	良	灰石、灰石、 砂粒多い	黄褐色	器柄不明
022	33	S-16	弥生上層	Q9.5 (7.6)		横に細い突起	内面紅付、ナテ、外周ナテナテ	良	内面紅、灰石多い	黄褐色	内面、外周入り付
023	33	S-16	弥生上層	Q9.5 (7.2)		横に細い突起	内周ナテ、外周ナテナテ、ココナテ、 外周ナテナテ	良好	内面紅、灰石多い	黄褐色	内面入り付
024	33	S-16	弥生上層	Q9.5 (6.6)		厚手の底面、内面紅あり	内周ナテ、外周ナテナテ、ココナテ、 外周ナテナテ	良好	内面紅、灰石多い	黄褐色	
025	33	S-16	弥生上層	Q9.5 (7.6)		厚手の底面	内周、外周ナテ、外周ナテナテ	良好	内面紅、灰石多い	黄褐色	
026	33	S-16	弥生上層				内周ナテ、外周ナテナテ	良好	内面紅、灰石多い	黄褐色	
030	35	S-1	弥生中層	12.2	3.6	ロコロ調整	ココナテ、内面へつり、 直線部へナテナテナテ	不良	内面紅、灰石、 砂粒少ない	白灰褐色	
031	35	S-1	弥生中層	12.30	4.5	ロコロ調整	ココナテ、直線部へつり、 直線部へつり	良好	内面紅、灰石、 砂粒少ない	淡褐色	
032	35	S-1	弥生中層	12.0	3.0	ロコロ調整	ココナテ、直線部へつり、 直線部へつり	良好	内面紅、灰石、 砂粒少ない	淡褐色	
039	35	S-1	弥生中層	12.2	3.5	ロコロ調整	ココナテ、直線部へつり、 直線部へつり	良好	内面紅、灰石、 砂粒少ない	淡褐色	
034	35	S-1	弥生中層	119.0	11.2	ロコロ調整、直線に3筋に内面紅あり	ココナテ、直線部へつり、 直線部へつり	良好	内面紅、灰石、 砂粒少ない	黄褐色	
035	35	S-1	弥生中層	Q9.5 (9.4)		ロコロ調整	ココナテ	良好	砂粒、内面紅少ない	白灰色	
036	35	S-1	弥生中層			ロコロ調整	直線ナテ	良好	砂粒、灰石少ない	淡灰白色	
037	35	S-1	弥生中層			ロコロ調整	直線ナテ	良好	砂粒少ない	黄褐色	
038	35	S-1	弥生中層	110.0		ロコロ調整	ココナテ	良好	内面紅、砂粒少ない	黄褐色	
039	36	S-1	土師中層	Q7.5		厚手の中に口縁部	ココナテ、内周ナテ直線ナテ、 外周ナテ	良好	内面紅、灰石多い	褐色	
040	35	S-1	土師中層	Q9.5 (8.6)			ナテ後ナメハケメ、直線部へつり、 ナテ直線ココナテ、内周ナテ	良好	砂粒、石灰少ない	淡褐色	
041	35	S-1	土師中層			厚手の中に口縁部	内周ナテ直線ナテ、外周ナテ	良好	内面紅、灰石多い	褐色	
042	35	S-1	土師中層			横に割れ目(口縁部)	内周へつり直線ココナテ、 外周直線ナテナテ	良好	内面紅、灰石多い	黄褐色	
047	37	S-3	弥生層			ロコロ調整	直線ナテ	良好	砂粒少ない	灰白色	
048	37	S-3	弥生層			ロコロ調整	直線ナテ	良好	内面紅付	黄褐色	
049	38	S-41	土師層				内周ナテ、外周ナテナテ、ナテ	良好	内面紅、灰石多い	黄褐色	
050	35	S-10	弥生層			ロコロ調整	直線ナテ	良好	砂粒少ない	黄褐色	
051	42	S-2	弥生層			ロコロ調整、直線にスカーンあり	ココナテ、内周ナテ、直線、外周ナテ へつり、スカーンあり	良好	内面紅、灰石、 内面紅少ない	黄褐色-淡褐色	
052	42	S-2	弥生層	112.20	6.2	ロコロ調整	ココナテ	良好	内面紅、灰石、 砂粒少ない	黄褐色	

年度	期	日	時間	科目	成績		事項、成績など	成績、文書など	授業	教員	特色	評価	備考
					1組	2組							
053	4B	S-2	演習				ロシア演習	内閣コナチ、外閣コナチ	平良	砂粒少ない、肉厚が多い	白褐色		
055	H区	S-15					ロシア演習	内閣コナチ、外閣コナチ、外閣コナチ、外閣コナチ	良野		灰白色～灰褐色		
056	B区	S-15	肉類	(10.8)			ロシア演習	口蹄疫を強く見直し、鼻付肉は好まれる	良野	肉質色			
057	B区	S-15	肉類?	(11.4)			ロシア演習	産肉、育入	良野	肉色			
059	S-15	肉類					ロシア演習、タタキ成形	コナチ、肉質同心円状で皮筋、外層のタタキ、厚切タタキ	平良	砂粒少ない	肉質白色	同心円状で皮筋、厚切タタキ成形	
060	B区	S-15					ロシア演習、タタキ成形	肉質同心円状で皮筋、外層のタタキ、厚切タタキ		砂粒少ない	肉色	同心円状で皮筋、厚切タタキ成形	
061	S-15	肉類					ロシア演習	コナチ	平良	砂粒少ない	肉質白色		
062	B区	S-15	肉類					コナチ、ナテ、実地あり	良野	肉質少ない、灰褐色			
063	B区	S-15	肉類					コナチ	良野	肉質少ない、灰褐色			
064	H区	S-15	肉類	高付肉(12.0)			ロシア演習	産肉、育入、高付肉は好まれる	良野	白褐色			
065	B区	S-15					ロシア演習	肉質同心円状で皮筋、外層のタタキ、厚切タタキ	良野	砂粒少ない	肉質色	産肉?	
066	B区	S-15	肉類	高付肉(15.4)			ロシア演習	産肉、育入、高付肉は好まれる	良野	白褐色			
068	B区	S-15	肉類				ロシア演習	産肉、育入	良野	白褐色			新鮮度 1590→1600
069	S-15						ロシア演習 肉質改良	コナチ、外閣へウエクスリ、肉質改良	良野	肉質、肉質少ない	肉質色		
070	B区	S-15	肉類					コナチ、ナテ、実地あり?	良野	肉質、肉質少ない	肉質色		
071	S-15	肉類					ロシア演習	コナチ	良野	肉質、肉質少ない	肉質色		
072	B区	S-15	肉類				肉質改良	肉質改良、肉質改良	良野	肉質多い、肉質少ない	肉質色、灰褐色		
073	S-15						ロシア演習、肉質改良	コナチ	良野	肉質多い、肉質少ない	肉質色		
074	B区	S-15	肉類					コナチ、ナテ	良野	肉質、肉質少ない	肉質色		
075	H区	S-15	肉類					コナチ、ナテ、実地あり?	良野	肉質、肉質少ない	肉質色		
076	S-12	肉類					ロシア演習	肉質改良	良野	肉質、肉質少ない	肉質色		
077	B区	S-12	肉類				ロシア演習	肉質改良、肉質改良	良野	砂粒少ない	肉質色		
078	S-12	肉類					ロシア演習	コナチ、肉質改良、スリ、肉質改良	良野	肉質、肉質少ない	肉質色		
079	S-14	肉類						肉質改良、肉質改良	良野	肉質少ない、肉質多い	肉質色		
081	B区	S-17	肉類				ロシア演習	肉質改良、肉質改良	良野	肉質少ない	肉質色		
084	H区	S-32	肉類	(13.0)			ロシア演習	産肉	良野	肉質			
085	S-56	肉類						ナテ、肉質改良	良野	肉質、肉質多い	肉質色	肉質改良	
086	S-82	肉類						コナチ	良	肉質、肉質多い	肉質色		
087	S-77	肉類						肉質改良、肉質改良	良	肉質、肉質多い	肉質色		
088	B区	S-77	肉類					ナテ	良野	肉質多い、肉質少ない、肉質少ない	肉質色		
089	P-20	肉類						肉質改良	良野	肉質、肉質多い	肉質色		
090	B区	E2	肉類				ロシア演習	肉質改良	良野	砂粒少ない	肉質色	肉質改良	
091	S-9	肉類					ロシア演習	肉質改良	良野	砂粒、肉質少ない	肉質色		
092	A区	C-11						肉質改良、肉質改良	良野	肉質少ない、肉質多い	肉質色	肉質改良	
093	A区	C-11	肉類	(15.4)			ロシア演習	肉質改良、肉質改良	良野	肉質、肉質少ない	肉質色	肉質改良	
094	S-20	肉類					ロシア演習	肉質改良、肉質改良	良野	砂粒少ない	肉質色		
095	H区	S-29	肉類?	(13.2)			ロシア演習	肉質改良、肉質改良	良野	肉質			
096	B区	87	肉類?	(18.0)	3.0			コナチ、肉質改良	良野	砂粒少ない、肉質、肉質少ない	肉質色		
097	B区	12	肉類					コナチ、肉質改良	良野	肉質、肉質少ない	肉質色		
098	B区	肉類						ナテ、コナチ	良野	肉質、肉質少ない	肉質色		
099	B区	S-70						ナテ	良野	肉質多い、肉質少ない	肉質色		

## 土鍾

遺物番号	発掘番号	出土地点	種類	材質	通径		備考
					径	幅	
100	B区	D-11	土鍾	土製	6.0	4.0	欠落

## 石製品・金属製品

遺物番号	発掘番号	出土地点	種類	材質	通径		備考
					径	幅	
010	29	S-33	鹿角	鹿角以石	2.6	4.3	小断面
010	29	S-33	石塊	鹿角質物	4.1	2.4	
011	29	S-52	燧石		残存径 6.1	残存幅 7.7	
012	29	S-52	燧石		13.0	9.8	ペンタラ行角
020	31	S-34	燧石		11.7	13.4	
027	33	S-18	燧石		9.8	残存幅 6.0	
028	33	S-16	燧石		11.5	12.1	
029	33	S-18 3層	燧石片	燧石	1.2	0.8	
043	35	S-1	燧石	燧石	上断面 3.6	厚さ 1.3	
044	35	S-1			13.0	4.9	
045	35	S-1	石皿		21.2	26.0	
046	35	S-1	石皿	燧石	33.8	32.1	断面に開けた穴あり
054	42	S-2 2層			12.8	10.9	
058	B区	S-15	燧石	燧石	残存径 11.0	1.7	燧石
067	B区	S-15	燧石	燧石			
082	B区	S-17	燧石	燧石	4.3	厚さ 1.0	
083		S-17	燧石		16.0	24.9	
101		S-39	燧石		11.2	13.0	

遺物番号	発掘番号	出土地点	種類	材質	通径		備考
					径	幅	
102		北郷表層	ナイフ型石		2.9	1.15	
104		C11	燧石	燧石	5.2	1.6	
105		C1	燧石		4.6	2.4	
107	B区	S-16	燧石		2.5	1.7	



第4表 遺物観察表 (その3)

## 土器・陶磁器類

## 上畑遺跡出土遺物観察表

調査年度	調査地点	遺物名	出土層	出土位置	形状・状態	材質・文様	色澤	備考	年代		
										形状・状態	材質・文様
106	85	S-16	瓦葺上層	40.0	34.3	焼み上げ、灰帯は比較的広帯を形成し並行付	口縁部はコナテ、内面は平角ナテ、外周へラズリ痕ナテ 底文は連続ストンブ	良好	砂粒少ない	灰白色	15世紀 成田式土器
028	72	SD-01	溝敷跡	(26.4)		焼み上げ焼みナテ成り	口縁ナテ、内面は中心内角で、外周 平行ストンブ	良好	砂粒含む	灰褐色	同中心角で真、 平行ストンブ並行
028	72	SD-01	竪石帯	(17.0)		焼みナテ	口縁ナテ、内面ナテ	良好	砂粒少ない	灰白色	
036	72	SD-01	瓦葺上層	(3.7)		粘土粘り上げ 内縁直付 次等胎付	口縁ナテ、ナテ、内周縁部はストン ブに似る	良好	砂粒少ない	灰褐色	
064	74	SD-01	陶器	(27.4)		口縁の調整	口縁ナテ、内周縁部 口縁部の一帯に磨きかかると	良好	砂粒少ない	灰褐色	厚澤 18世紀 ~19世紀
045	74	SD-01	瓦葺上層			焼み上げ	内周縁部、外周ナテ	良好	内周に、灰石多い	灰白色	
063	74	SD-01	溝敷	(22.4)		口縁の調整	口縁ナテ、磨きかかると、外周へラズ リ痕文	良好	灰褐色		厚澤 18世紀前半 町も焼?
046	74	SD-01	染付	(9.0)		口縁の調整	口縁ナテ、磨きかかると	良好	灰褐色		厚澤 17世紀後半
031	72	SD-01	白磁	(15.0)		口縁の調整	口縁ナテ、磨きかかると	良好	灰褐色		11世紀
032	72	SD-01	漆喰溝	(25.0)		口縁の調整	口縁ナテ、内周縁部	良好	砂粒あり	暗赤褐色	中泉トウゴ、高 島川周部
035	72	SD-01	瓦葺			焼み上げ、灰帯付付	ナテ、口縁部はコナテ、外周は花 文のストンブ	良好	角付、砂粒多い	灰褐色	
040	72	SD-01	瓦葺			焼み上げ	ナテ、口縁部はコナテ	良	内周に、灰石多い	灰白色	
039	72	SD-01	瓦葺			焼み上げ	ナテ、口縁部はコナテ	不良	内周に、灰石多い	灰白色	
053	74	SD-01	陶器	高野 (9.2)		口縁の調整	口縁ナテ、内周縁部、再台付は 無効、色艶	良好	灰褐色		厚澤 18世紀後半
037	72	SD-01	瓦葺			焼み上げ	内周ナテ、外周・口縁部はコナテ	良好	内周に、砂粒多い	灰褐色	
047	74	SD-01	陶器	(10.0)		口縁の調整	口縁ナテ、全周に磨き、裏入 製造跡付	良好	灰褐色		厚澤 17世紀末 ~18世紀前半
048	74	SD-01	陶器	(11.7)		口縁の調整	口縁ナテ、全周に磨き、裏入 製造跡付	良好	灰褐色		厚澤 18世紀前半
049	74	SD-01	陶器	(10.7)		口縁の調整	口縁ナテ、全周に磨き、裏入、 製造跡付	良好	灰褐色		厚澤 18世紀後半
057	74	SD-01	染付	(12.3)		口縁の調整	口縁ナテ、全周に磨き、裏入、 製造跡付	良好	灰褐色		厚澤 18世紀後半
050	74	SD-01	陶器	(9.8)		口縁の調整	口縁ナテ、全周に磨き	良好	厚赤褐色		厚澤 18世紀後半
038	72	SD-01	瓦葺上層			焼み上げ	ナテ、外周へラズリ痕ナテ、 口縁部はコナテ	良	内周に、砂粒多い	灰褐色	
030	72	SD-01	瓦葺上層			焼み上げ、口縁の調整	口縁ナテ、磨きかかると	良好	磨き、砂粒多い	灰褐色	
034	72	SD-01	土師器	(22.8)		焼み上げ、口縁の調整	口縁ナテ、外周の一帯に磨きかかると	良好	磨き多い	灰褐色	
042	74	SD-01	土師器	高野 (9.0)		口縁の調整	内面は平角ナテ、外周縁部のため 不明	良	内周に、灰石多い	暗赤褐色	二次焼成跡がある
060	74	SD-01	染付	(8.0)		口縁の調整	口縁の調整 全周に磨き	良好	灰白色		厚澤 18世紀後半 二次焼成跡がある
033	72	SD-01	瓦葺上層	(32.0)		焼み上げ、口縁の調整	コナテ	良好	内周に、灰石多い	灰白色	中野3期
059	74	SD-01	染付	(7.0)		口縁の調整	口縁の調整 全周に磨き 物文文	良好	灰褐色		厚澤 18世紀後半
058	74	SD-01	染付	(8.0)		口縁の調整	口縁の調整 全周に磨き	良好	灰褐色		厚澤 18世紀後半
055	74	SD-01	染付	(9.0)		口縁の調整	口縁の調整 全周に磨き 足見研ぎ 文	良好	白色		厚澤 18世紀後半
062	74	SD-01	染付	(3.5)		口縁の調整	口縁ナテ、全周に磨き	良好	白色		厚澤 18世紀後半
056	74	SD-01	磁器	(9.0)		くわんかん式 口縁の調整	口縁ナテ、全周に磨き	良好	灰褐色		厚澤 18世紀後半
031	74	SD-01	陶器	(10.0)		口縁の調整	口縁ナテ、内周縁部は中心角付に 磨き、磨きは無効	良好	厚赤	暗赤褐色	厚澤 18世紀後半
052	74	SD-01	陶器	(8.0)		口縁の調整	口縁ナテ、外周へラズリ痕ナテ、 磨きは無効	良好	磨き	暗赤褐色	厚澤 18世紀後半
044	74	SD-01	土師器			焼み上げ	へラズリ痕、磨き外周へラズリ痕 へラズリ痕	良好	内周に、灰石多い	灰褐色	
041	72	SD-01	瓦葺			焼み上げ	ナテ、口縁部はコナテ	良	内周に、灰石多い、 砂粒多い	灰白色	
043	74	SD-01	土師器	(8.9)	(1.3)	口縁の調整	口縁ナテ、内周縁部ナテ	良	内周に、灰石多い	暗赤褐色	13~14世紀
017	72	SD-01	染付	(8.4)		口縁の調整	口縁ナテ 内周に磨き	良好	灰褐色		厚澤 18世紀後半
018	72	SD-01	染付	(9.0)		口縁の調整	口縁ナテ 内周に磨き	良好	灰褐色		厚澤 18世紀後半

品番	通巻	巻	号	書名	収録		原題、原邦名	題名、文種など	掲載	形式	色紙	備考
					形態	頁数						
001	74	SD-01	実行		9.0		ロゴ調整	図解ナテ 両面に海海、岡崎神社	良好	淡灰色		新巻 18世紀後半
054	74	SD-01	実行		9.8	(4.75)	ロゴ調整	図解ナテ 両面実行は補助	良好	淡灰色		新巻 18世紀後半
016	72	SD-01	海海				ロゴ調整	内装ナテ、内装扉頁	良好	淡黄褐色		18世紀後半 中巻巻末
027	72	SD-01	海海		(13.4)		調整後 ロゴ調整	図解ナテ 片端	良好	淡灰色 緑色		新巻巻末 1600~1800年
026	72	SD-01	土葬巻					へうまがき	良好	内装白、実行多		新巻巻末
006	79	SD-04	瓦葺	巻頭	(35.2)		組み上げ 両面扉頁 扉頁取り取り	内装ナテ、ヨコナテ、外装へうまがきナテのりナテ、巻頭ナテ	良好	内装白、実行多		淡黄褐色
002	79	SD-04	土葬巻				組み上げ	ナテ、1冊巻ヨコナテ	良好	内装白、実行多		淡黄褐色
003	79	SD-04	瓦葺				組み上げ	内装へうまがきナテ、外装へうまがきナテ、口縁巻ヨコナテ	良好	実行多		16世紀前半
089	79	SD-04	瓦葺				組み上げ、ロゴ調整、巻頭に3ヶ所の左折スガシ	内装ナテ、内装内装不定方向ナテ、片ナテ、巻頭下折てし巻頭ナテ	良好	内装白、実行多		暗褐色
085	79	SD-04	瓦葺	(27.8)			組み上げ	内装ナテナテ、外装へうまがきナテ、口縁巻ヨコナテ	良好	内装白、実行多		淡黄褐色 折富士入り巻
004	79	SD-04	土葬巻	(20.0)			組み上げ	内装ナテ、外装へうまがきナテ、口縁巻ヨコナテ	良好	内装白、実行多		淡黄色
097	79	SD-04	瓦葺				巻上げ巻頭を白くせる	内装ナテ・ヨコナテ、外装ナテ、ヨコナテ	良好	砂金多		暗褐色
014	89	SD-08	土葬巻	13.2	3.9		組み上げ、ロゴ調整 (右折り)、巻頭何れへ少折	内装ナテ、外装内装はせん乳の何れナテ	良好	内装白、砂金多		淡黄褐色
102	81	SD-05	書道巻				巻頭め	ヨコナテ	良好	砂金多		淡黄色 中巻5~6a 折
101	81	SD-05	瓦葺				組み上げ、タテ成形、ロゴ調整	内装ナテ、巻頭内装巻て巻頭、巻頭巻頭タテ成形、タテハケ	良好	内装白、実行多		暗褐色 何れ何れは、中折ナテ巻頭
016	89	SD-08	海海巻				組み上げ、ロゴ調整	内装ナテ、内装ナテ、巻頭何れ	良好	内装白、実行多		暗褐色
013	89	SD-06	土葬巻	(12.6)	(4.1)		巻上げ巻頭上げ ロゴ調整 (右折り) 巻頭何れへ少折	内装ナテ、巻頭に巻頭正折あり	良好	巻頭 内装白多		新巻巻末
012	89	SD-06	巻頭ナテ					ヨコナテ、ナテ	良好	内装白、実行多		淡黄色 巻頭時代前期
		SD-12	海海巻				組み上げ、ロゴ調整	ヨコナテ	良好	砂金多		暗褐色
		中巻巻頭 犬ノ乳	瓦葺				組み上げ、ロゴ調整 (右折り)、内装しぼりあり	内装ナテ	良好	精良		暗黄褐色
		SD-13	海海巻				組み上げ、ロゴ調整	内装ナテ	良好	砂金多		暗褐色
080	79	SD-04	巻頭	巻頭	(4.5)		ロゴ調整	内装ナテ、巻頭何れ巻頭ナテ、外装巻頭巻頭から巻頭にかけて巻頭	良好	淡黄色		18世紀後半
091	79	SD-04	内装	巻頭	5.0		ロゴ調整	内装ナテ、両面巻から両面何れ巻頭	良好	均一		新巻巻末 (何れ上折巻末 17世紀後半~新巻)
103	81	SD-05	巻頭	巻頭	(4.7)		ロゴ調整	内装ナテ、両面巻は海海	良好			淡黄色 巻頭 18世紀後半
104	81	SD-05	巻頭	巻頭	(1.0)		ロゴ調整	内装ナテ、両面巻は海海 巻頭	良好			淡黄色 巻頭 10年代
		SD-05	巻頭	巻頭	4.0		ロゴ調整	内装ナテ、巻頭何れ巻頭ナテ、両面巻から両面何れにかけて巻頭	良好			淡黄色 巻頭 18世紀後半
		巻頭	巻頭	4.5			ロゴ調整	内装ナテ、両面巻は海海 巻頭巻頭と巻頭に砂金巻	良好			淡黄色 巻頭 18世紀後半
106	87	SX-01	瓦葺	巻頭	(9.4)	(4.5)	ロゴ調整	ナテ、外装へうまがきナテ	良好	内装白多		淡黄色 18世紀後半
001	60	S-26	瓦葺	巻頭	(33.0)		組み上げ	口縁巻から内装はヨコナテ、外装はナテ、巻頭	不良	内装白、実行、砂金多		淡黄色 巻頭時代前期
005	60	S-26	瓦葺	巻頭			組み上げ	ヨコナテ、内装ナテ、外装は不定方向ナテ	不良	内装白、実行、砂金多		淡黄色 巻頭時代前期
007	63	S-27	瓦葺	巻頭			組み上げ、外装巻頭	内装ナテ、外装何れヨコナテ、巻頭不定方向ナテ、巻頭	不良	内装白、実行、砂金多		淡黄色 巻頭時代前期
003	60	S-26	瓦葺	巻頭			組み上げ	内装ナテ、外装何れナテ、巻頭ナテ、巻頭	不良	内装白、実行多		淡黄色 巻頭時代前期
002	60	N-26	瓦葺	巻頭			組み上げ	ナテ、内装ナテナテ、巻頭	不良	内装白、実行多		淡黄色 巻頭時代前期
004	60	S-26	瓦葺	巻頭	(2.0)		組み上げ	口縁巻から内装はヨコナテ、外装はナテ、巻頭	不良	内装白、実行、砂金多		淡黄色 巻頭時代前期
008	67	SK-29	瓦葺	巻頭			組み上げ	ナテ	良好	内装白、実行多		淡黄色 巻頭時代前期
009	67	SK-29	瓦葺	巻頭			組み上げ	ナテ	良好	内装白、実行多		淡黄色 巻頭時代前期
010	67	SK-29	瓦葺	巻頭			組み上げ	内装ナテ、ナテ	良好	内装白、実行多		淡黄色 巻頭時代前期
011	67	SK-29	瓦葺	巻頭			組み上げ	ナテ	良好	内装白、実行多		淡黄色 巻頭時代前期

調査年度 調査年度	調査年度 調査年度	調査年度 調査年度	調査年度 調査年度	調査年度 調査年度		調査年度 調査年度	調査年度 調査年度	調査年度 調査年度	調査年度 調査年度	
				調査年度 調査年度	調査年度 調査年度					
065	74	SD-01			十字	十字			内照灯、壁灯少灯	流石也

調査年度 調査年度	調査年度 調査年度	調査年度 調査年度	調査年度 調査年度	調査年度 調査年度	調査年度 調査年度	調査年度 調査年度		調査年度 調査年度
						調査年度 調査年度	調査年度 調査年度	
073	74	SD-01	土壁	漆喰	5.0	1	A層	
071	74	SD-01	土壁	漆喰	4.5	1		
078	74	SD-01	土壁	漆喰	3.9	1	A層	
079	74	SD-01	土壁	漆喰	床下(3.1)	1	A層	
033	72	SD-01	土壁	漆喰	5.1	2	B層	
024	72	SD-01	土壁	漆喰	4.7	1.0	A層	
025	72	SD-01	土壁	漆喰	4.4	1	B層	床下の結合部あり
022	72	SD-01	土壁	漆喰	3.8	1	B層	
019	72	SD-01	土壁	漆喰	5.2	1	A層	
020	72	SD-01	土壁	漆喰	5.1	1	B層	窓部
021	72	SD-01	土壁	漆喰	4.6	1	A層	窓部
084	74	SD-01	土壁	漆喰	4.4	2	壁状土壁 B層	窓部
080	74	SD-01	土壁	漆喰	5.05	1	A層	窓部
087	74	SD-01	土壁	漆喰	4.4	1	A層	窓部
072	74	SD-01	土壁	漆喰	5.1	2	A層	
081	74	SD-01	土壁	漆喰	6.3	1	壁状土壁 B層	
083	74	SD-01	土壁	漆喰	5.0	1	壁状土壁 B層	
075	74	SD-01	土壁	漆喰	4.8	1	A層	
076	74	SD-01	土壁	漆喰	4.3	1	壁状土壁 A層	
086	74	SD-01	土壁	漆喰	4.6	1	壁状土壁 B層	
088	74	SD-01	土壁	漆喰	8.65	2.0	壁状土壁 窓部、廊下等	
067	74	SD-01	土壁	漆喰	5.2	1.2	壁状土壁 B層	
066	74	SD-01	土壁	漆喰	4.6	1.0	壁状土壁 A層	
082	74	SD-01	土壁	漆喰	4.9	1.5	壁状土壁 B層	
060	74	SD-01	土壁	漆喰	4.75	1.1	壁状土壁 B層	
077	74	SD-01	土壁	漆喰	4.7	1.15	壁状土壁 B層	窓部
070	74	SD-01	土壁	漆喰	9.6	1.2	壁状土壁 B層	窓部
085	74	SD-01	土壁	漆喰	4.3	1.5	壁状土壁 A層	窓部
074	74	SD-01	土壁	漆喰	4.5	1.2	壁状土壁 B層	窓部
066	74	SD-01	土壁	漆喰	5.1	1.10	壁状土壁 B層	窓部

調査年度 調査年度	調査年度 調査年度	調査年度 調査年度	調査年度 調査年度	調査年度 調査年度	調査年度 調査年度		調査年度 調査年度
					調査年度 調査年度	調査年度 調査年度	
098	79	SD-04	漆喰	壁内	17.4	20.2	
100	79	SD-04	漆喰	壁内	6.3	4.8	壁面は3面
099	79	SD-04	漆喰・漆喰	カンラン石、 押入壁	11.0	10.45	
008	60	S-28	漆喰	壁内	14.3	6.8	壁面は2面

第5表 遺物観察表(その4)

## 馬下遺跡出土遺物観察表

## 土器・陶磁器類

調査年度	調査区	出土層	遺物種類	形状		土質、成分など	製造、文様など	破損	取上	色調	備考
				口径	高さ						
001	97	S-10	灰土器	(14.0)		積み上げ	ナブ、口縁部ココナテ	良好	内開石、長石多い	灰褐色	
002	99	SD-6	瓦葺			積み上げ	ココナテ	良好	内開石、長石やや多い	灰褐色	
003	99	SD-5	瓦葺			積み上げ	ココナテ、外開へうき	良好	内開石、長石やや少ない	灰色～灰褐色	
004	103	SD-6	瓦葺			積み上げ	内開石方向ナテ、外開ココナテ	良好	内開石、長石、金剛砂少ない	灰褐色～黒灰色	出陣あり?
006	103	SD-6	瓦葺	(18.0)		積み上げ	ココナテ	良好	内開石、長石少ない	灰褐色	
006	103	SD-6	瓦葺			積み上げ	ココナテ	良好	内開石、長石少ない	灰褐色	横線系
007	103	SD-6	瓦葺	(17.0)	5.4	積み上げ? 外開縁あり	ナブ、外開縁部、口縁部ココナテ	良好	内開石、長石、金剛砂やや多い	灰褐色～黒灰色	
008	103	SD-6	瓦葺	(16.0)	4.8	押し出し技法	内開ナテ、外開縁部、ナテ、口縁部から外開をココナテ	良	内開石、長石多い	灰～黒褐色	
009	103	SD-6	瓦葺			積み上げ	ココナテ、口縁部ココナテ	良好	内開石、長石、金剛砂やや多い	灰褐色～黒褐色	
010	103	SD-6	瓦葺	(15.2)	3.6	積み上げ～押し出し、縦線あり?	ココナテ、内開平縁ナテ、外開縁部ナテ	良好	内開石、長石少ない	灰褐色～黒褐色	
011	103	SD-6	瓦葺			積み上げ? 外開縁あり	内開ココナテ、外開縁部、ナテ、口縁部ココナテ	良好	内開石、長石やや多い	灰褐色～黒褐色	
012	103	SD-6	土師器	13.2	2.9	口縁部、内開縁部あり	内開ナテ、内開ナテ、内開縁部、内開縁部あり	良好	内開石、長石少ない	灰褐色	縦線あり?
013	103	SD-6	土師器	縦線係		口縁部、内開縁部あり	内開ナテ	良好	内開石、長石やや多い	灰褐色	縦線あり?
014	103	SD-6	土師器	0.9		表裏面縁部あり?	内開ナテ	良好	内開石、長石多い	灰褐色	縦線あり?
015	106	S-3	瓦葺	(10.0)		口縁部	内開ナテ	良好	内開石、長石	灰色	
016	106	S-3	瓦葺	(11.2)		口縁部	内開ナテ	良好	内開石、長石	灰色	
017	106	S-3	瓦葺	(18.0)		口縁部	内開ナテ	良好	内開石、長石	灰色	内開縁部付
018	106	S-3	瓦葺			口縁部	ココナテ	良好	内開石、長石やや多い	黒褐色	
019	106	S-3	瓦葺			口縁部	ココナテ	良好	内開石、長石少ない	灰褐色	
020	106	S-3	瓦葺			積み上げ、口縁部	ナテ	良好	内開石、長石少ない	灰褐色	
021	106	S-3	瓦葺				内開ナテ	良好	内開石、長石やや多い	灰色	
022	106	S-3	瓦葺	つぎみ 積み上げ		口縁部	ココナテ、外開へうき	良好	内開石、長石少ない	灰褐色	
023	106	S-3	瓦葺				ココナテ	良好	内開石、長石やや多い	灰色	
024	106	S-3	瓦葺				内開ナテ	良好	内開石、長石やや多い	灰色	
025	106	S-3	瓦葺			口縁部	内開ナテ、裏文	良	内開石、長石少ない	灰褐色	
026	106	S-3	瓦葺			積み上げ	ココナテ	良好	内開石、長石	灰褐色	二次焼成受け
027	106	S-3	瓦葺			積み上げ、一長突	ココナテ	良好	内開石、長石少ない	灰褐色	
028	106	S-3	瓦葺			口縁部	ココナテ	良好	内開石、長石少ない	灰褐色	
028	106	S-3	瓦葺			口縁部	内開ナテ	良好	内開石	灰褐色	内開縁部付
029	106	S-3	瓦葺			積み上げ	ココナテ	良好	内開石、長石	灰褐色～黒褐色	二次焼成受け
030	106	S-3	瓦葺	(12.2)		積み上げ	ココナテ、外開ハツ工口	良	内開石、長石少ない	灰褐色	
031	106	S-3	瓦葺	(11.0)		積み上げ	ココナテ	良好	内開石、長石少ない	灰褐色	
032	108	S-3	青磁	(10.2)	2.1		内開縁部、内開縁部、へうき	良好	内開石、長石	灰褐色	内開縁部
033	106	S-3	青磁	縦線係 (5.0)		口縁部	内開縁部、内開縁部	良好	内開石	灰褐色	内開縁部
034	106	S-3	青磁				内開縁部、内開縁部、へうき	良好			
035	106	S-3	青磁			口縁部	内開縁部、内開縁部	良好	内開石	灰褐色	内開縁部
036	106	S-3	青磁				内開縁部	良好	内開石	灰褐色	内開縁部
036	106	S-3	青磁				内開縁部、内開縁部、へうき	良好	内開石	灰褐色	内開縁部
037	106	S-3	青磁?				内開縁部、内開縁部	良好	内開石	灰褐色	内開縁部

No.	種別	年代	巻数	原簿・題名	収録		巻数・収録巻	内容・収録巻	調査・文書など	発見	入手	状態	備考
					1巻	尚書							
038	106	S-3		作集?					河原に巻物	良好	灰色		河原巻
039	106	S-3		寄題 (7.5)					河原に巻物、記入、口字ビ?	良好	灰色		扇巻
040	106	S-3		台帳 (16.5)					河原に巻物	良好	口灰色		
042	106	S-3		作集					河原に巻物	良好	灰色		
043	106	S-3		寄題					河原に巻物、記入、オリーブ色の巻物	良好	作灰色		
044	106	S-3		作集					河原に巻物、河原巻	良好	灰白色		扇巻
045	106	S-3		作集					河原に巻物、記入、口原巻口先付	良好	灰色		
046	106	S-3		尚書					河原に巻物、口原巻+扇	良好	灰色		
047	107	S-3		瓦葺	表紙 5.0 新巻 (5.0)				内蔵への上書き、外蔵ナテ、瓦葺に郵便封筒あり	良好	内蔵白、瓦葺、金箔写少ない		瓦葺色
048	107	S-3		瓦葺	新巻 (5.0)				内蔵「奉合ナテ、外蔵ココナテ」様とあり、ナテ	良好	内蔵白のみ少		灰色
049	107	S-3		瓦葺巻	奉合巻 (5.0)				内蔵ナテ、外蔵瓦葺	良	新巻、裏白多い		黄灰色
050	107	S-3		瓦葺巻	表紙 8.0				内蔵「いはい」女子ナテ、外蔵ココナテ巻物折込、両ナテ		内蔵白のみ少		白色~灰色
051	107	S-3		瓦葺?	新巻 7.0				ナテ、外蔵ココナテ、一冊のみナ	良好	瓦葺のみ少		灰色
052	107	S-3		瓦葺巻					ナテ、1冊巻から新巻1下ナテ後へナテナテ、外蔵下巻+新巻ナテ	良好	内蔵白少ない、裏白多い		灰褐色~灰白色
053	107	S-3		瓦葺巻					内蔵ナテ、外蔵新巻、ナテ、口原巻から外蔵ココナテ	良	内蔵白少ない、裏白多い		灰~灰褐色
064	107	S-3		瓦葺 (25.8)					1冊巻から新巻にかけてココナテ、内蔵ココナテ、外蔵ナテ	良好	内蔵白、瓦葺、金箔写少ない		黄褐色~黄灰色
065	107	S-3		瓦葺					ココナテ	良好	内蔵白、裏白少ない		黄褐色~黄灰色
075	107	S-3		瓦葺	(24.8)				内蔵ナテ	良好	新巻		黄褐色
057	107	S-5		瓦葺					内蔵ココナテ、内蔵ナテ	良好	内蔵白、瓦葺、金箔写やや多い		内蔵白~黄褐色
058	107	S-3		瓦葺					内蔵ナテ新巻かい、ココナテ、外蔵ココナテ、ナテ	良好	内蔵白のみ少		灰色
059	107	S-3		瓦葺					ココナテ	良好	内蔵白、裏白少ない		灰褐色
060	107	S-3		瓦葺					内蔵ナテ	良好	内蔵白のみ少		灰~白色
061	107	S-3		瓦葺					ココナテ	良好	内蔵白、裏白少ない		灰白色
062	107	S-3		瓦葺					口原巻ココナテ、内蔵ナテ、新巻、外蔵へウケスリ	良好	内蔵白、裏白、金箔写やや多い		黄白色
063	107	S-3		瓦葺					ナテ	良好	裏白少ない		黄褐色~黄灰色
064	107	S-3		十冊巻	(40.0)				内蔵ナテ、外蔵ケズリ巻ココナテ、口原巻ココナテ	良好	内蔵白、裏白多い		灰褐色
065	107	S-3		十冊巻	(37.0)				ココナテ、内蔵巻折込、外蔵ケズリ巻ナテ、ケスリ	良好	内蔵白少ない、裏白少ない		黄褐色~黄灰色
066	108	S-3		十冊巻	(26.11)				内蔵ナテ新巻ココナテ、外蔵ココナテ、ナテ後ナテハテ	良好	内蔵白のみ少、瓦葺少し		KD色~黄褐色
067	108	S-3		十冊巻					新巻+新巻	良好	内蔵白少ない、裏白のみ少		黄褐色~黄灰色
068	108	S-3		十冊巻	(19.2)				内蔵ナテ後ココナテ、外蔵ココナテ巻物折込、1冊巻ココナテ	良好	内蔵白のみ少		黄褐色~黄灰色
069	108	S-3		十冊巻					ココナテ	良好	内蔵白、裏白、金箔写やや多い		灰色
070	108	S-3		十冊巻					ココナテ	良好	内蔵白、裏白多い		黄褐色
071	108	S-3		十冊巻	(24.0)				内蔵ココナテ、ナテ後巻かいココナテ、外蔵ナテ後ナテナテ	良好	内蔵白、瓦葺のみ少		白色~黄褐色
072	108	S-3		十冊巻					ココナテ	良好	内蔵白、瓦葺多い		黄褐色
073	108	S-3		十冊巻					内蔵ナテ、ココナテ、外蔵ココナテ巻物折込、ナテ後ケスリ	良好	内蔵白少ない、瓦葺少し		黄褐色~黄灰色
074	108	S-3		十冊巻					ココナテ	良好	内蔵白、裏白多い		黄白色
075	108	S-3		十冊巻					ココナテ、ナテ、内蔵一冊ハテ	良好	内蔵白、瓦葺多い		灰色
076	108	S-3		十冊巻					内蔵ココナテ、外蔵へウケスリ巻ココナテ	良好	内蔵白、瓦葺多い		黄褐色
077	108	S-3		十冊巻					内蔵ココナテ	良好	内蔵白のみ少		黄褐色
078	108	S-3		十冊巻					内蔵ナテ	良好	内蔵白、裏白多い		灰褐色
080	108	S-3		七冊巻	新巻 (7.0)				内蔵+両ナテ、外蔵新巻ココナテ	良好	内蔵白、裏白少ない		黄褐色

No.	年代	出典	品名	位置		説明、産地など	説明、文様など	産地	色	色澤	備考
				目録	通称						
088	108	S-3	土師器	黄白陶(7.0)		ロクロ調製? 器台付焼	内面、黄色内ナテ、外面から器台にかけてヨコナテ	良	内面付、黄白少ない	黄褐色	
091	108	S-3	瓦甕	磁器(7.0)		器台上げ	ナテ、器台に黒いヨコナテ	良好	内面付、黄白少ない	灰白色	器止糸切手?
092	108	S-3	土師器				内面ナテウツケ、外面ヨコナテ焼土層	良好	内面付多い、黄白少ない	磁器褐色	外面ス入付着
093	108	S-3	土師器				ナテ、口縁部ヨコナテ	良好	内面付、黄白多い	褐色~灰褐色	
095	108	S-6	磁器				磁器ナテ	良好	器台少ない	灰白色	
096	108	S-8	磁器				磁器ナテ	良好	器台少ない	灰白色	
097	108	S-8	古代土師器	黄白陶(12.2)		ロクロ調製、内面へウツケ	内面ナテ、海面に包状凹痕あり	良好	内面付、黄白少ない	灰褐色	
098	108	S-8	古代土師器	黄白陶(12.2)		器台上げ	ヨコナテ	良好	内面付、灰白多い	黄褐色	
099	108	S-8	瓦甕?				ヨコナテ、内面平置きナテ	良好	内面付、黄白少ない	黄褐色~黄白色	
100	109	S-1	漆器	漆器(9.8)	4.5		黄白に漆施。「大塚野村お祭り」	良好	灰白色		新発見 18世紀前半
101	109	S-1	磁器	磁器(9.8)	4.8	くわんわん柄	黄白に黄施	良好	口内色		18世紀前半
102	109	SK-7	土師器				器台上げ	ヨコナテ	良好	内面付少ない、灰白多い	磁器色
103	109	S-1	白磁	白磁(9.0)	1.8		足元に文様?	良好	内面付		江戸慶應元 19世紀中葉
104	109	S-1	陶器?	陶器?	3.0	器台付	内面付口縁部を器台で焼	良好	灰白色		黄褐色? 小皿付? 18世紀代
105	109	SK-7	陶器?				陶器赤土、黄土	良好	灰白色		18世紀前半
106	109	S-1	磁器	磁器(10.0)			黄白に黄施、空焼物	良好	内面付		新発見?
107	109	S-2	陶器				内面付ナテ焼土層、外面付ナテ	良好	器台		黄褐色
108	109	S-2	磁器	黄白陶(6.0)		伝来品	黄白に黄施	良好	口内色		1780~1810年
109	109	S-2	磁器	磁器(11.0)	4.9		黄白に黄施	良好	白灰色		慶應義塾蔵 近代
110	109	S-2	磁器	磁器(7.2)	2.8		黄白に黄施	良好	口内色		黄/白磁系 近代
111	109	下層	瓦甕				ヨコナテ、内面ナテ、外側内面ナテ	良好	内面付(ホチキ)、器台少ない	灰白色	
112	109	下層	瓦甕	黄白陶(3.8)			内面、黄白ナテ、黄白から器台までヨコナテ	良好	内面付少ない、灰白少ない	黄白色	
113	109	下層	瓦甕				内面ナテ焼へウツケ、外面へウツケスリ後一部土層、ヨコナテ、ナテ	良好	内面付、器台少ない	灰白色	
114	109	下層	土師器	黄白陶(5.2)			ロクロ調製、黄白陶系赤切り	良好	内面付少ない、器台少ない	灰白色	
115	109	トレンチ内	黄褐色	黄褐色(13.5)	3.8		ロクロ調製、器台付焼	ヨコナテ、内面ナテ	良好	内面付(ホチキ)、器台少ない	黄褐色
116	109	トレンチ内	瓦甕	磁器(6.0)			ロクロ調製	ヨコナテ、器台ナテ	良好	内面付、器台少ない	灰色
117	109	トレンチ内					ロクロ調製?	ナテ、口縁部ヨコナテ	良好	内面付、器台多い、灰白少ない	灰褐色
118	110	内面~口縁部(黄褐色)	黄褐色	黄褐色(26.0)			器台上げ、ロクロ調製、ホチキ成形	器台ヨコナテ、内面付まで黄白、外側ホチキまで黄色、ホチキ	良好	器台少ない	灰白色 器て黄、内行ホチキ 半割型
119	110	トレンチ内	黄褐色	黄褐色(27.1)			器台上げ、ロクロ調製	ヨコナテ	良好	器台少ない	灰白ナテ
120	110	西層	瓦甕				内面付ナテ、外側器台焼土層、黄白文	良好	器台、器台少ない	灰色	
121	110	西層	瓦甕				ロクロ調製?	器台ナテ	良好	器台少ない	灰色
122	110	西層	瓦甕	黄褐色(12.7)			ロクロ調製	器台ナテ	良好	器台少ない	灰白色~黄褐色
123	110	トレンチ内	瓦甕	瓦甕(18.4)	5.0		器台上げ、ロクロ調製、押し出し成形、黄白陶付	外面上中帯から内面ヨコナテ、下部器台調製、器台付近に器台ナテ	良好	内面付、黄白少ない	灰褐色~黄褐色
124	110	トレンチ内	瓦甕	瓦甕(34.8)			器台上げ、ロクロ調製	器台付焼へウ、口縁部ヨコナテ	良好	器台、器台少ない	黄褐色
125	110	トレンチ内	瓦甕	黄褐色(6.8)			ロクロ調製	内面付ナテ焼土層、外側ナテ、口縁部ヨコナテ	良好	内面付(ホチキ)、器台少ない	灰色
126	110	西層	瓦甕				内面ナテ黄白ナテ、外側ナテ、口縁部ヨコナテ	良好	内面付、黄白少ない	灰色	
127	110	トレンチ内	瓦甕				ロクロ調製	内面ナテ黄白ナテ、外側ホチキ、口縁部ヨコナテ	良好	内面付、黄白少ない	灰色
128	110	トレンチ内	土師器				ロクロ調製	内面ナテ黄白ナテ、外側ホチキ、口縁部ヨコナテ	良好	内面付少ない、器台少ない	黄褐色~黄褐色
129	110	トレンチ内	土師器				ロクロ調製	内面付(ホチキ)ナテ、外側ナテ、口縁部ヨコナテ	良好	内面付少ない	黄褐色~黄褐色
130	110	トレンチ内	土師器	黄褐色(10.0)			ロクロ調製?	ヨコナテ、器台ナテ	良好	内面付、器台少ない	黄褐色
131	110	トレンチ内	西層ナテ	黄褐色(7.8)			ロクロ調製?	外側ホチキ、ヨコナテ、口縁部付から器台付ナテ	良好	内面付、器台少ない	黄褐色~黄褐色

産地番号	産地	品種	栽培方法	収穫		果形・果重など	樹形・大木など	色味	樹上	虫病	備考
				11月	翌年						
132	110	トレンチ 上級	産地 (7.3)			狭み上げ、ロクロ調整	ココナテ	良好	長粒、砂糖少ない	にぶい黄褐色	10～11世紀
133	110	トレンチ 内	黒色土産 (7.3)			狭み上げ、ロクロ調整	ココナテ	良好	長粒、砂糖少ない	にぶい褐色	黒色土産入属 10～11世紀
135	111	西區 上級	紅雲産 (9.8)			ロクロ調整	ココナテ、底層ヘタケズリ	不良	角四角、長粒、 砂糖やや少ない	黄褐色	外産は赤黄?
136	111	上級	茨巻産 真2.2			ロクロ調整	ココナテ	良好	角四角、長粒やや多い	黄褐色	
137	111	西上級	黒雲産 (15.0)			狭み上げ、タタキ成形	口縁部から底層ココナテ、底層内面 にて収穫、外産多量	良好	砂糖少ない	黄褐色	同心円状古く、 平打多量産地
138	111	上級	土層産			狭み上げ	角四角ナテ、口縁部ココナテ、外産 ス付研のため不明	良好	角四角、長粒やや多い	黄褐色	
139	111	上級	土層産			狭み上げ	ココナテ、外産調整はス付研のため 不明	良好	角四角、長粒 やや少ない	黄褐色	
140	111	西上級	土層産			狭み上げ	ココナテ、内産ココナテ	良好	角四角、長粒少ない	黄褐色	
142	111	西下級	紅雲産			ロクロ調整	ココナテ	良好	角四角、 長粒やや少ない	黄褐色	
143	111	西下級	赤雲産			狭み上げ、ロクロ調整	田輪ナテ	良好	砂糖少ない	灰色	
144	111	西下級	赤雲産			狭み上げ、ロクロ調整	ココナテ	良好	砂糖少ない	黄褐色	
145	111	西下級	紅雲産 (12.3)			ロクロ調整	ココナテ、調整は産地、後述、11 調整ココナテ	良好	角四角、長粒 やや少ない	黄褐色	同心円に同一調整 あり
146	111	西區 下級	内産				調整産物	良好		オレンジ色	
147	111	西下 下級	白産			ロクロ調整	内産調整、一調整	良好		灰白色	
148	111	西下 下級	真雲 真2.2				内産上中産ミタキ、下中産ミタキナテ、 真雲ミタキ、真白ミタキの産地ココナテ	良好	角四角、長粒少ない	黄褐色～灰色	狭み入
149	111	西下 下級	真雲 (12.0)			押し出し、後述	外産上中産から内産ミタキココナテ、 下中産調整	良好	角四角、砂糖少ない	灰白色～黒 灰色	
150	111	西下 下級	十郎産			狭み上げ	ココナテ	良好	角四角、長粒多い	黄褐色	古代
151	111	西下 下級	土層産			狭み上げ	ココナテ	良好	角四角多い、 長粒少ない	灰褐色	古代
152	111	西區 下級	上層産			狭み上げ	内産ヘタケ、外産ナテ、口縁部コ コナテ	良好	角四角、長粒少ない	黄褐色に ぶい黄褐色	一層ス付研
153	111	西下級	十郎産			狭み上げ	ココナテ	良好	角四角、砂糖多い	灰褐色	
154	111	西下級	土層産 (21.2)			狭み上げ	ココナテ	良好	角四角多い、長粒少 ない	灰褐色	
155	111	西下級	上層産			狭み上げ	外産上中産から内産ココナテ、外産 下中産ナテ	良好	長粒、砂糖少ない	黄褐色	口縁部が中平 産、調整のため
156	112	西中 中級	真雲産			ロクロ調整	ココナテ	良好	角四角、長粒少ない	黄褐色	
157	112	西中①	真雲産			狭み上げ、タタキ成形、ロクロ調整	調整内中ナテ、調整内真産で真粒、 真粒少ない、中平	良好	砂糖少ない	灰色	古く、平打多 量産地
158	112	西中②	真雲産			狭み上げ、タタキ成形	産地から調整にかけてココナテ、産 地内面にて真粒、外産多量産地	不良	角四角、長粒、 砂糖やや多い	黄褐色	同心円に同一調整 あり
160	112	西中①	真雲産 (15.1)			狭み上げ、ロクロ調整(内調整)	調整ナテ、真産調整(内調整) ナテ、古ナテ	良好	砂糖少ない	灰色	
160	112	西中②	真雲産 (14.0)			ロクロ調整	ココナテ、内産ナテ、古ナテ、調整 産地、調整は産地、口縁部ココナテ	良好	角四角、 長粒やや少ない	黄褐色	同心円に同一調整 あり

## 鉄貨

産地番号	産地	出土年月	果形	樹形	収穫			備考
					種	果	備考	
000	108	S-3	真雲長形	1033				

### 土製品

産物番号	図面番号	片土形状	種類	材口	寸法		備考
					長さ	幅	
094	108	S-3	土障	茶筒形	現存品 4.8	1.4	
085	108	S-3	土障	茶筒形	現存品 4.4	1.3	
086	108	S-3	土障	茶筒形	現存品 4.5	1.3	
082	108	S-3	土障	茶筒形	5.5	1.3	
083	108	S-3	土障	茶筒形	5.2	0.9	
084	108	S-3	土障	茶筒形	4.8	1.5	
088	108	S-3	土障	茶筒形	3.9	1.3	
087	108	S-3	土障	茶筒形	現存品 4.0	1.2	
079	108	S-3	土障口		現存品 3.8		

### 瓦

産物番号	図面番号	地上地下	形状		産物及び寸法		産地	備上	色澤	備考
			瓦形	瓦口径	瓦長	瓦幅				
141	111	地上地下			唐瓦形、丁字瓦十字	十字	良好	向四打(平下0、砂粒少な)		

### 石製品

産物番号	図面番号	石の種類	種類	材口	寸法		備考
					長さ	幅	
134	110		石障	横石			
089	108	S-3	瓦石		現存品 6.0	厚さ 2.5	産地別4割



# 写 真 图 版



諸田南遺跡全景 (北から)

図版 2 (諸田南遺跡)



諸田南遺跡全景 (西から)



諸田南遺跡全景 (東から)



調査区東側



調査区西側



調査区中央部

図版 4 (諸田南遺跡)



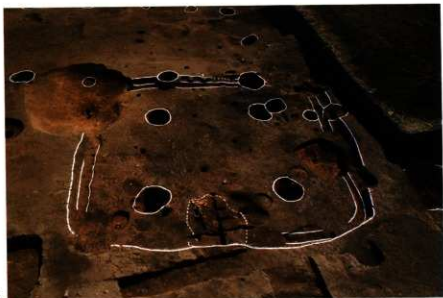
S-1 完掘状況



S-1 底面の状況



S-4 完掘状況



SH-6 完掘状況



SH-6 竈近景



SK-3 完掘状況

図版 6 (緒田南遺跡)



SK-5、11、12  
遺物出土状況その1



SK-5、11、12  
遺物出土状況その2



SK-5、11、12  
完掘状況その1



SB-2完壘状況その2



SB-2 完壘状況



SD-9 推積状況





田代遺跡全景(空撮) その1



田代遺跡全景(空撮) その2



調査区全景 (南から)



S-52完堀状況



S-59、62完堀状況



SH-34遺物出土状況



SH-34完掘状況



SK-16遺物出土状況



SK-16推積状況



SH-1遺物出土状況



SH-1完壘状況



SH-3 完堀状況



SH-3 貼床完堀状況



SH-10 完堀状況



SH-10 竈の状況



SB-4 完壘状況



SB-5 完壘状況



SK-2遺物出土状況



SK-2完掘状況



SK-11 完掘状況



SD-15完堀状況  
(東から)



SD-15完堀状況  
(西から)



SD-15断面a





SD-15断面b



SD-12、13完堀状況



SD-8、SD-9完堀状況



SK-17完堀状況



SK-32検出状況



SK-32完堀状況